

学部長挨拶

早稲田大学教育学部ペアレンツデーのサイトにアクセスしていただき、ありがとうございます。教育学部長の若林幹夫です。

本来ならこのペアレンツデーは、皆様を早稲田のキャンパスにお招きして直接お話し、またキャンパスツアーなどで早稲田の秋をお楽しみいただける機会なのですが、新型コロナウイルス感染症の広がり終息への見通しがいまだ不透明なため、残念ながら今年度も、昨年度に続いてオンラインでの開催となりました。

ここにご参加いただいた皆様が保護者となっている学生諸君は、昨年度の春の入学式は中止となり、春学期初めは授業も行われず、5月からほぼ年間を通じてオンラインでの授業という、きわめて変則的な形での大学生活のスタートとなりました。保護者の皆様にも、入学式でキャンパスにお出でいただく機会をもつていただくことができず、大変残念に感じております。昨年度は学生諸君だけでなく、保護者の皆様も、不安な中での1年間だったと推察いたします。私たち教員や、それを日々支えてくれている事務所のスタッフにとっても、昨年度は試行錯誤の連続で、ご迷惑やご心配をおかけしたこともあったかと思えます。それらのことについては、ここで改めてお詫びを申し上げます。

私も、昨年度は講義もゼミもほぼすべてオンラインで実施していたのですが、12月と1月に1回ずつ、担当している公共市民学専修の必修の講義を、大教室での対面で実施しました。せめて1回か2回でも、大学の教室での講義を、希望する学生諸君にはぜひ経験して欲しかったからです。久しぶりに対面で講義をして感じたのは、オンライン教育にもさまざまな利点がありますが、やはり同じ教室で、互いの姿や顔を見、反応を感じながら、即興も交えて講義を進めていくことの、ライブならではの楽しさでした。場合によっては初めて顔を合わせたのかもしれない同級生と、笑顔で話をしている学生たちを見て、やはり大学はこうでなければとも思ったものです。

私の場合、今年度は必修の講義はこれまでずっと対面で実施してきましたが、教室の講義の方が集中して頭に入るという感想を、受講している学生から聞くことがあります。今年の春、一年遅れで開催された早稲田アリーナでの入学式で2年生の学生諸君にはお話ししたのですが、大学というのは教育のコンテンツだけでできているわけではありません。休み時間も含むキャンパスで過ごす時間の中での、様々な人や出来事との出会いやすれ違いも含めて、“大学”という経験の場が日々生きられ、作られているのです。

今年のペアレンツデーでは、皆様にそんな大学という場を経験していただくことはできませんでしたが、私たちは日々、そうした場所と時間を、オンラインという新しい場も組み込みながら、学生諸君と共に作るべく努力しています。ここに参加された皆様が保護者をされている学生諸君は、そんな新しい大学を共に生き、作ってゆく最初の世代になります。保護者の皆様には、今後とも教育学部の教育にご理解ご助力を賜ると共に、ご指導ご鞭撻いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。



2021年9月3日

早稲田大学教育学部長 若林 幹夫